

## 第1回酪農後継者育成塾が開催されました

生産本部 営農指導課

去る5月25日（木）に令和5年度第1回酪農後継者育成塾が開催され、26名の方が受講しました。



小池常務

らくのうマザーズ小池常務の挨拶として需給緩和や資材高騰の状況の変化、子牛管理の重要性などについて話がありました。また、これから熊本の酪農を担っていく受講者へ向けて激励の言葉がありました。

今回の育成塾午前の部では南部生産本部長より、「オリエンテーション」と題し、酪農情勢報告や補助事業・経済支援などの対策の内容、本会の指導方針、生乳取引や生乳流通の仕組みなどについて話がありました。



南部本部長

令和5年度の乳価については8月取引分から飲用乳価の10円/kgの値上げが決定していること、昨年度の本会の経済支援対策に加えて指導事業対策を実施したことなどについての説明がありました。

次に今年の夏は生乳不足が予測されており、6～11月までの需要期生産に努めることが経営のプラスとなるため、暑熱対策などに今から備えておく必要があるとの話がありました。

また、生乳取引や流通に関しては生産者が搾った生乳が指定団体を通じてバルクからどのように

流通し販売されているのか、どのように乳価が決定しているか、指定団体の役割や存在意義も含めて話がありました。

最後に、このような苦境の中ですが、色々な策を講じながら前向きに、生産意欲を向上させてほしいと後継者に向けてメッセージがありました。

午後の部では本会の久田職員による「子牛の哺育」についての話がありました。



グループワークの様子

初めに班毎のグループワークを実施し、「自身の牧場で行っている子牛の疾病対策」について意見交換を行いました。どの班も活発に意見が交わされ、敷料のこまめな交換、初乳の管理、保温や断熱、虫対策のほかに牧場内での定期ミーティングを行っているなどの意見が出ました。



久田職員

久田職員からは、子牛の疾病対策として、出生子牛にいかにか初乳を飲ませられるか、また効率的に吸収させるかのポイントとして、

- ①乾乳期の管理
- ②正常な分娩と助産のタイミング

## MOTHER'S

の二点を重要視すべきという話がありました。

胎仔の段階で子牛の免疫力や出生後の生産性が決定づけられることや、むやみに分娩の介助をすると母子の健康性のリスクが高まるということです。乾乳牛の栄養、飼育スペース、移動のタイミングの話から、正常な分娩の経過、出生後の子牛のケアなどについて詳しく話がありました。

研修会後のアンケートでは、「生乳を一滴も無駄にしないよう注意したい」「酪農情勢と今後の見通しが詳しく知れてよかった」「子牛の管理は

まだ関わっていないので、親と一緒に管理していきたい」「お産をけん引しがちなので、見守るようにしたい」などの感想をいただきました。

令和5年度も後継者の育成や交流を目的とした酪農後継者育成塾を全5回開催予定です。ご興味のある方やお問い合わせ等ございましたら担当までご連絡下さい。

(営農指導課 096-388-3510)



育成塾の様子



## 第61回熊本県酪農青壮年部協議会 第52回熊本県酪農女性部協議会 通常総会開催！

令和5年5月19日（金）、熊本市内のメルパルク熊本にて、第61回熊本県酪農青壮年部協議会および第52回熊本県酪農女性部協議会の通常総会が開催されました。

冒頭、青壮年部の中村委員長、女性部の富田会長、らくのうマザーズの隈部会長より挨拶があり、続く来賓祝辞として県庁畜産課の鶴田審議員、全酪連福岡支所の高橋次長よりそれぞれ挨拶を頂きました。

その後、前田裕幸氏（玉名酪農協）と飯星美恵子氏（上益城農協）を議長に選任し議事に入りました。両協議会とも、令和4年度事業報告および収支決算承認の件などが上程され、いずれも原案通り可決されました。

なお、令和5年度の主な事業計画については以下のとおりとなっております。

また、当日は昨年度まで両協議会においてご尽力された松田仁氏、松岡昇一郎氏（当日欠席）、稲田仁美氏、長塩涼子氏、洞田貫二三子氏の5名に功労者表彰が行われました。



会場風景

### 令和5年度事業計画

#### 経営活動（予定）

活動内容	実施年月	協議会
全国酪友フォーラム2023	令和5年7月	青壮年部・女性部
熊本県酪農女性レクリエーション大会	令和5年10月	女性部
青壮年スポーツ大会	令和6年1月	青壮年部
第47回酪農女性の集い	令和6年2月	女性部
第48回熊本県酪農発表大会	令和6年3月	青壮年部・女性部

#### 教育活動（予定）

活動内容	実施年月	協議会
ちちの日に牛乳(ちち)を贈ろう！キャンペーン	令和5年6月	青壮年部・女性部
理解醸成消費拡大活動	令和5年7月、11月	青壮年部・女性部
夏季酪農大学	令和5年8月	青壮年部・女性部
らくのうマザーズ執行役員との意見交換会	令和5年9月	青壮年部・女性部
料理講習会	令和5年9月	女性部
酪農ふれあい体験交流事業	令和5年11月	青壮年部
九州酪農青年女性会議指導者研修会	令和6年1月	青壮年部・女性部
農林水産省職員との交流会	令和6年1月	青壮年部
農林水産省での酪農経営に関する意見交換会	令和6年2月	青壮年部

## 第33回熊本県酪農ヘルパー利用組合 通常総会

経営支援課

熊本県酪農ヘルパー利用組合（生山組合長）の第33回通常総会が5月26日（金）、熊本市のメルパルク熊本で開催されました。冒頭の生山組合長の挨拶の中で、令和4年度の



生山 組合長

の挨拶の中で、令和4年度の利用実績が、契約農家数404戸に対し利用農家戸数は254戸と全体の62.9%の利用と出役回数が、4,810回、前年比の86.2%の実績となったこと。

人手不足や少子高齢化といった非常に厳しい雇用環境の中、ヘルパー人員確保に向け、HPや県内外での募集活動に積極的に参加したことや、役員らの牧場で学生インターンシップを実施し3名が2泊3日の日程で体験研修に参加される等、様々な雇用推進対策を講じていること。

ヘルパー職員のスキルの向上のために（一社）酪農ヘルパー全国協会主催で、経験豊富なヘルパー職員が若手ヘルパーを育てていくために必要な指導力を身に付けていくための中堅酪農ヘルパー指導力向上研修に2名の職員が参加したこと。

新人ヘルパー職員に対する座学研修（DVD）に3名の職員が参加しスキルアップ向上に努めたこと。

ヘルパー職員の人数は昨年度2名の採用と3名の退職者があり、現在22名の専任ヘルパー、2名の補助ヘルパー併せて24名体制となっています。また、本年度1名を採用しており、研修生として見極めをしている状況です。

会員の皆様方に多大なるご迷惑をお掛けしておりますが、今後も引き続き人材確保に努めて参り

たいと思いますので、ご理解賜りますようお願い申し上げますとの挨拶がありました。



鶴田 審議員



小池 常務

続いて熊本県農林水産部生産経営局畜産課審議員の鶴田氏および小池常務より来賓祝辞がありました。



愛甲 議長

議事に入り、愛甲和弘氏（球磨酪農協）を議長に選任し、令和4年度事業報告及び収支決算承認の件、令和5年度事業計画及び収支予算（案）承認の件、令和4年度傷病時利用互助会収支決算承認の件、諸規程見直し（案）の件、計4議案を審議し、全議案が原案通り可決承認されました。今回の諸規定の見直しでは、実施要領及び互助会規約の一部が改訂されました。



総会風景

# COLUMN — コラム —

## 「長いトンネルの先には！」

新型コロナウイルス感染症は、2019年（令和元年）12月初旬に、中国の武漢市で第1例目の感染者が報告されてから、わずか数ヶ月ほどの間にパンデミックと言われる世界的な流行となりました。日本においては、2020年（令和2年）1月13日に肺炎状況が改善しない患者に対し、翌日に管轄保健所により行政検査の手続きがとられました。1月15日夜に確定診断がなされ、国内感染者第1例目となりました。感染力は想像を大きく超え、一気に日本国全土に蔓延していきました。

コロナ感染症収束の目途が立たない中で、2022年（令和4年）2月24日ロシアは、兄弟国のウクライナに攻め入りました。プーチン大統領は、NATOの脅威に対する自衛措置だと理由付け、親欧米のゼレンスキー政権の打倒に乗り込みました。ロシア側は、この侵攻はすぐに終わるとの見方だったのでしょうが、欧米を巻き込んだウクライナの抵抗は激しく、長期に及ぶ事態になっています。

これら2つの非常事態により、多くの産業が大きなダメージを受け、酪農も今までに経験したことのない危機的状況となりました。全国的に多くの酪農家の廃業が続いています。直近の生乳出荷戸数の減少率は、年間3～4%台で推移していましたが、2022年度指定団体出荷戸数は、全国で7%減少したとのこと。北海道は4.6%減少、都府県の減少幅は大きく8.7%減となりました。熊本県においても前年度19戸の酪農家が離脱し、1戸の新規就農がいらっしゃいますので、減少数は18戸、4.2%の減少率です。熊本震災以来の4%越えとなっており、今年度中に300戸台になることは間違いない状況です。九州他県では、10%を超える減少をみている県も散見され、九州の廃業者戸数は、前年度の倍となっています。

生産抑制の年度であったこと、また、飼料を含めた生産資材の高騰等により、生乳生産量も全国的に減少し、7,532,513トンを前年比1.5%減となり4年ぶりの減産となりました。九州の生乳生産量も大きく減少し、九州生乳販連の令和4年度生乳受託販売数量は575,374トンを前年比95.3%で終了しています。熊本県酪連の生乳生産量も、260,752トン（前年比99.1%）となり、震災次年度以来の減産となりました。九州の中では、一番高い前年比ではありますが、前年度より2,400トンほど減少しています。

九州は北海道から遠く離れており、重要な生乳生産地域ですので、想定を超える酪農家減少・生産乳量低下は大問題です。このまま

では生産基盤は弱体化し、生乳不足の状況が再び訪れかねません。九州生乳生産の中心である熊本県も、本年度さらに減産傾向で推移している状況です。

乳価は、現在、加工向けも含め10円引き上げられています。今年8月から飲用向け、発酵乳向けがさらに10円値上がりします。それでも経営は困難な状況かもしれませんが、酪農家自身に取り組むべき経営改善策も多く存在することは、周知の事実です。直近に考えていただきたいことを記載します。釈迦に説法…「もうやっていますから」と言われそうですが…

①夏季（乳価値上がり時）の牛群管理は、非常に重要です。暑熱対策のさらなる強化をお願いします。前年度猛暑の影響で夏期分娩牛が多くなっていると思われます。乾乳牛の暑熱対策も大切です。夏の乳牛疾病・淘汰の状況で、経営内容は大きく変化します。②飼料価格の高止まりは、しばらく継続すると思われます。配合飼料については、安定基金制度の特例措置により、ある程度の補てんが継続されます。安価な輸入粗飼料が少ない状況ですので、自給飼料増産も含め良質粗飼料の確保に取り組みしましょう。③牛乳消費理解醸成活動の重要性に目を向けましょう。生産者乳価値上げの中、牛乳の販売価格も当然上昇していきます。牛乳が売れなければ、加工向け生乳が増加し、思ったほどプール乳価は上昇しません。色々な外郭団体が理解醸成活動を展開しています。人任せではなく、牛乳生産者としての自覚を持ち、協力していきましょう。

薄暗いトンネルは、非常に長く、通り抜けるのに時間が掛かっています。トンネルから抜け出せないまま、廃業を選択される酪農家も多く存在している状況です。しかし、出口の光は見えてきています。ここまで辛抱してきて、この時期に辞めてしまうのが一番勿体ないと思います。農家の経営的窮状は理解していますが、永遠にトンネルが続くわけではありません。簡単に言うなど叱責されるかもしれませんが、なんとか踏ん張っていただきますことを心より祈念しております。



らくのうマザーズ  
常務理事 小池 泰隆氏

## ちちの日に牛乳を贈ろう！キャンペーン ～『牛乳贈呈式』を実施しました！～

今年度最初となるキャンペーンの一環として、「父の日」である6月18日に先駆けて、6月7日に熊本県酪農女性部協議会の役員で熊本県庁および九州農政局を訪問し、蒲島知事・宮崎農政局長へ牛乳の贈呈を行いました。コロナ禍も明け、昨年から対面での贈呈式を行い、目の前で関係者の方々に御試飲いただく貴重な機会となりました。

「おいしい！」や「この牛乳を作るには大変な努力をさせていただいているんですね、ありがとうございます。」といった激励の言葉に生乳生産に携わる中で、改めてやりがいを感じる一時でした。

皆さんもこのキャンペーンを機に大切な人へ「牛乳」を贈り、笑顔をもたらしてみたいはいかがでしょうか？

これからも熊本県酪農青壮年部・女性部協議会では一般生活者の方々ととの交流を大切に、牛乳の消費拡大に向けた理解醸成活動を行って参ります。各地区での活動等と併せまして、ご協力を宜しくお願い致します。(©2010熊本県くまモン)



## 新人獣医師紹介

生産本部指導部技術課 下山 翔平



皆様はじめまして。下山 翔平（しもやま しょうへい）と申します。鹿児島大学共同獣医学部獣医学科を卒業し、4月より獣医師として、らくのうマザーズに入会いたしました。

私は熊本市南区飽田の出身で、田畑に囲まれた自然豊かな町で育ちました。幼いころから自然や生き物が大好きで、家族で観光地に行ってもアリの行列を追いかけるような幼少期でした。そんな生き物大好き少年は、将来は動物に関わる仕事がしたいと思い、小学校4年生の時から獣医師を志しました。熊本への想いが強くなったきっかけは、熊本地震を経験したことです。実家も被害を受け、2週間の避難所生活を送る中で、多くの方からの支援を受けました。また、自分自身もボランティア活動に参加することで、熊本の被害の酷さや、そこからの復興の大変さを肌で感じたため、地元熊本へ少しでも貢献したいと考えるようになりました。

大学では、犬や猫、豚、牛、馬など多くの種類の動物について学びましたが、実習やインターンを通して大動物の獣医師に憧れ、研究室は産業動物獣医学分野に所属しました。研究室では主に馬の外科手術に携わり、助手として手術に参加することで基本的な外科技術について学びました。臨

床実習では検診の同行、骨折やヘルニアの手術などを通して牛に関わりました。このような実習を通して、すべての生き物の中で子牛が一番可愛いということに気づき、「熊本への貢献のためにも」と考え、らくのうマザーズに入会しました。

ここで少し趣味の話させていただきます。私は中高6年間硬式テニスに打ち込み、九州大会にも出場しました。また大学ではゴルフ、野球、フットサル、釣り、登山などいろいろなスポーツにチャレンジしましたが、現在はゴルフに熱中しており、休日はゴルフに行くか、実家にいる愛犬に会いに行っています。愛犬の名前はベルといい、鹿児島県の動物愛護センターから引き取った10か月齢の子犬です。お散歩がへたくそですが、とにかく可愛いです。どんなお話でも構いませんので、見かけたら気軽にお声を掛けてください。

幼いころからの夢であった獣医師になり、現場で必要な知識や技術を覚えることに精一杯な日々ですが、皆さんのお役に立てるよう尽力したいと思います。ご迷惑をおかけすることもあると思いますがよろしくお願いたします。



動物愛護センターから引き取った「ベル」